

FMU 男女共同参画通信

第13号 June 2017

福島県立医科大学男女共同参画支援室

すがすがしい初夏の季節となりました。男女共同参画推進本部は、この4月で4年目を迎えました。今年度も様々なセミナーを開催する予定となっておりますので、皆様是非ご参加ください。また、育児・介護支援や研究支援等も行っておりますので、ご興味のある方はお気軽にご連絡ください。今年度もよろしくお願いたします。

男女共同参画推進本部長の挨拶

2017年4月1日付で、男女共同参画推進本部長に就任致しました。よろしくお願い申し上げます。さて、男女共同参画社会とは、男女共同参画社会基本法に「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」と規定されています(第2条)。このような法律が施行されたのは、平成13年1月6日であり、日本では憲法に規定されている男女平等が社会に定着していなかった実態を背景にしていると言えます。

そのような中で、本学にも以前から、女性医師支援センター、キャリアラボなどが男女参画の視点から活動してきた部門がありましたが、平成26年度より男女共同参画推進本部として統合され活動を続けています。これまでの関係の皆様のご努力により、本学は全国的にも女性の働きやすさはかなり改善してきていると思います。しかし、まだ決して十分とは言えませんので、現在もさまざまな取り組みを継続しております。

なお、ややもすると「男女共同参画推進」=「女性教職員等への支援」と受け取られかねない側面が残念ながらあります。その最大の理由は、本男女共同参画支援室の活動等が十分に本学の皆さんに伝わっていないことではないかと考えます。男女共同参画社会基本法の前文には、「...男女が、互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現が、喫緊の課題...」との視点が示されています。本学が教職員等すべての関係者にとって働きやすく、快適な職場になる一助となるよう、職員一同努力していく所存です。

皆様のご積極的な関与も期待しております。何卒よろしくお願い致します。



本部長 安村 誠司

男女共同参画推進本部 新メンバーの紹介

- 男女共同参画推進本部 部長
○安村 誠司
(医学部公衆衛生学講座 教授)
- 男女共同参画推進本部 副部長
兼男女共同参画支援室 室長
○小宮 ひろみ
(性差医療センター 部長)
- 男女共同参画推進本部 室員
○宇川 義一
(医学部神経内科学講座 教授)
- 紺野 慎一
(医学部整形外科学講座 教授)
- 亀岡 弥生
(医療人育成・支援センター 教授)
- 丸山 育子
(看護学部基礎看護学部門 講師)
- 鈴木 朋子
(会津医療センター
漢方医学講座 准教授)
- 伊藤 剛
(事務局次長)

男女共同参画推進本部 H29年度 男女共同参画推進員研修会

去年4月より「男女共同参画推進行動計画」に基づき、各所属長を男女共同参画推進員として配置し、各所属の男女共同参画の意識の浸透と確実な推進を図ることを目的にしております。

その男女共同参画推進員を対象として、去る5月17日(水)に株式会社ペンギンエデュケーション代表取締役/NPO法人ファザーリング・ジャパン東北代表理事 横田智史氏をお招きし、研修会を開催しました。

横田様には、ワークライフバランスの取組やイクボスの推進など御社での先進的な男女共同参画の取組についての貴重なお話をいただきました。改めて男女共同参画の重要性を認識することができました。



H29年度下半期のニーズ調査を実施します

ライフイベント(出産・育児・介護・看護等)を抱えた教員の研究支援を行っております。

つきましては、**7月中**にニーズ調査(配置希望調査)を行います。

支援期間：H29年10月1日～H30年3月31日まで

1. 対象者：本学の主に医学部・看護学部・会津医療センターに所属する助手以上(大学院生も含む)の研究者(性別は問いません)のうち、①～④にあてはまる教員。

①妊娠中であること

②家庭において、小学校6年生までの児童の主たる養育者であること

③同居・別居に関わらず市町村の要介護認定を受けている親族の主たる介護者であること

④その他、上記に準ずる(家族の看病をしている等)状況であること

2. 支援を希望される方は、7月中に配布する調査票にて詳細をご確認ください。

病児病後児保育「すくすく」 利用者&保育士の声

利用者 Aさん より

私は娘が1歳になる少し前に育休から復帰しました。働き始めの頃、娘は本当によく熱を出し、長い時間を「すくすく」でお世話になりました。

初めて利用するときには母子共に緊張してお部屋を訪ねましたが、娘の名前を呼んで暖かく迎えてくださり、一日中ずっと側にいてくださったので、すぐに安心できました。保育室はとてもきれいで明るく、おもちゃや絵本、DVDも沢山あります。娘にとっては、普段見慣れないおもちゃで遊べるのもちょっとした楽しみになったようです。

最近は一時期に比べると利用回数は少なくなりましたが、たまにお世話になると「また大きくなったね！」などと声を掛けていただきます。こうした機会に成長を実感し、多くの方に成長を見守っていただいていると改めて感謝しています。また、子どもの病気は避けられないものですが、落ち着けばここに頼れるという安心感が仕事を続けていく上で精神的に大きな支えになっていると思います。きっと助かっている保護者の方は私だけではないと思いますので、引き続き「すくすく」の皆さんには頑張っていただければうれしいです。



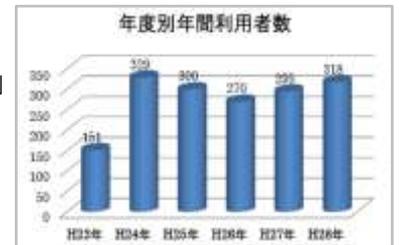
「すくすく」保育士さん より

今年度「すくすく」は、7年目を迎えることになりました。これまで、医師・看護師・事務・技師・学生等の多くの方に利用していただきましたが、医大の職員でしたらどなたでも利用可能ですので、お気軽にお問い合わせ下さい。

「すくすく」は、お子さんが病気になり集団保育が困難な時、回復してもまだ集団保育には不安がある時、あと一日様子をみたいという時に、一時的に児童の保育や看護を行い、職員や学生の方々が安心して、就労と勉強ができるように支援することを目的として設立されました。定員は4名で一人一人個別の部屋でお預かりします。家庭的な雰囲気を大事にしなが、元気に集団保育に戻るために、心身共に休めるよう配慮し、ゆっくり過ごしていただきます。

年に数回しか会わない子供達ですが、会う度に体も大きくなり、言葉数も増え、年齢ごとに成長していく姿が見られるのが楽しみです。

就学前の子の利用が主ですが、小学生も4年生まで利用可能です。一人で家に置いておかなければならない時等は、ぜひ「すくすく」をご利用下さい。少しでも多くの方の力になればと思っています。よろしくお祈りします。



H29年度育児サポート事業説明会を開催しました

5月19日(金)に「育児サポート事業説明会」を開催しました。説明会では、本学の病児病後児保育「すくすく」、育児サポート事業「こども緊急サポートネットワークふくしま」、「福島市ファミリーサポートセンター」のスタッフの方々による事業の概要、お申込み方法などについてご説明いただきました。

また本支援室では、随時お申込みなどを受付けておりますので、お気軽にご連絡ください。

HPにも掲載しておりますので、こちらをご覧ください。

<http://www.fmu.ac.jp/home/gendeqsp/>



H29年度上半期イベントスケジュール

日付	イベント	講師等	日付	イベント	講師等
7/5	FMU カフェ in 会津医療センター	会津医療センター リハビリテーション科 半谷 智辰先生	9/19	FMU イングリッシュカフェ	講師調整中
7/14	FMU スキルアップセミナー 「英語論文執筆セミナー」	エルゼビア・ジャパン(株) ソリューションコンサル タント 高橋 昭治氏	10/13	男女共同参画講演会	●黒川 清先生 (政策研究大学院大学 名誉教授/日本医療政策 機構代表理事) ●山本 明美先生 (旭川医科大学二倫 草センター センター 長)
7/25	FMU 女性限定カフェ	本学にご所属する女性が 対象です。			

福島県立医科大学では、個人として尊重され、性別に関わらず、多様な価値観を認め合い、持てる個性と能力を最大限発揮できる環境を築き、仕事と生活の調和を実現することを目指しています。

福島県立医科大学 男女共同参画支援室

【連絡先】 E-mail : gendeqsp@fmu.ac.jp / Tel : 024-547-1657 / 内線 : 2807

HP : <http://www.fmu.ac.jp/home/gendeqsp/>

男女共同参画支援室長 小宮 ひろみ
コーディネーター 千葉 篤子